

国連工業開発機関(UNIDO)東京事務所長

安永 裕幸

アフリカ工業化の日



読者の皆さんは、11月20日か何の日かご存じだろうか？ 毎年この日は「アフリカ工業化の日」(Africa Industrialization Day)と呼ばれている。これは、1989年の国連総会での決議に基づいたもので、爾来、国連工業開発機関(UNIDO)ではアフリカ連合(AU)や国連アフリカ経済委員会(UNECA)と共同で各種イベントを実施している。

昨年、UNIDO東京投資・技術移転促進事務所においても、在京アフリカ

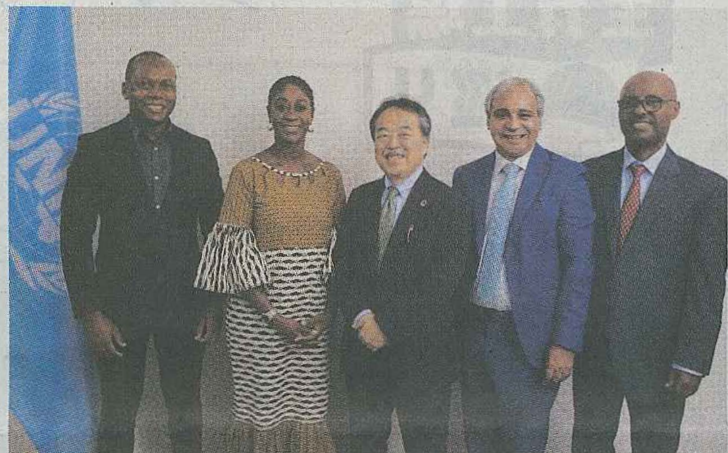
未来を 変える

ア経済研究所の平野克己上席主任調査研究員から講演をいただくとともに意見交換を行ったところである。

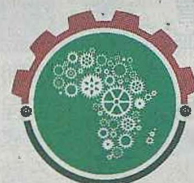
アフリカがなぜ過去(現在も)、貧しかったのか、については勿論答えは一つではない。各国のおかれた地理的状况、歴史の経緯(特に欧州の宗主国との関係)、国内の政治・社会状況等が複雑に絡んでいる。

国連は、そもそも世界平和の恒久的な実現を目指した組織であるが、中でもUNIDOは、「アフリカを始めとする開発途上国は、過去、1次製品の生産と輸出により経済活動を展開してきたが、1次製品は価格の変動も激しく経済運営は安定しない。また、これらに付加価値を付けないと雇用の確保と更なる経済発展は実現できない」という認識に基づいて工業開発・産業振興を行っている。まさに、SDGsの第9番目の目標である「産業と技術革新の基盤を作ろう」を、アフリカ諸国を対象に展開するのが我々の大きな使命である。

日・アフリカ企業がオンライン商談会



UNIDO東京事務所アフリカアドバイザー、2020年アフリカ工業化週間のロゴマーク



AIW AFRICA INDUSTRIALISATION WEEK 2020

の民間企業に声をかけ、ウェブ上で日本企業の方々と商談を行っていた。だこうという狙いである。また、勿論、アフリカ・アドバイザーとの情報交換も歓迎する。

本年は、まず11月20日(金)に、JETRO、国際協力機構(JICA)、国連開発計画(UNDP)との共催で「アフリカ・ビジネスセミナー」を開催し、アフリカビジネスの魅力について改めて講演やパネルディスカッションを催すこととしている。それに続き、12月4日までのほぼ2週間に亘って、当事務所のアフリカ諸国におけるネットワークを通じて、11カ国から150社余のアフリカ

・商談会」を開催することとしている。具体的には、日本企業の進出を現地で支援する当事務所の4人のアフリカ・アドバイザー(アルジェリア、エチオピア、セネガル、モザンビーク)と、長年密接に連携しているガーナ、ケニア、チュニジア、モリシヤスの各国政府投資庁の担当者を通じて、これらの諸国(上記にウガンダ、ブルンジ、ルワンダが加わる)から各国10-20社

の民間企業が参画する「アドバイザーが現地企業を10社日本に連れてきてくれ、日本企業と合計99件の商談会を行ったが、今回はその経験を基に、更に多くの企業とのマッチングを企図している。アフリカの成長企業は、スピードも速いし、ビジネスの推進力も大きい。勿論、ビジネスであるからには種々の事前調査が不可欠であり、これを我々としては2022年のTICAD8に向けての投資促進分野でのキックオフ活動と位置付けたいと考えているところである。

TICAD8へキックオフ